

国際交流員ウルリーケ・シュラックの
今月のウリ場
Vol.18
ドイツにおける
移民について
Part II「統合」


皆さんこんにちは、お元気でしょうか？3月になると、寒さが少し柔らかくなるでしょうか？私はとても期待していますが、皆さんはどうですか？私は冬があまり好きではないので、早めに1年中暖かい国へ引っ越したいと先月の記事に書きました。それには外国への移住が必要となるので、自分の国「ドイツにおける移民」をテーマにしました。ドイツに住んでいる外国人口数は日本より多く、経済・社会・宗教的な問題がないわけではありません。ですから今月は、移民に関する「統合」について議論したいと思います。

まず、多くの移民労働者たちは職業訓練を受けていません。なぜならば、これはドイツが特に単純な仕事のための労働者を募集したからです。専門技術者として働いている人も一部いますが、レベルが高い資格を必要とする職業に就いている人はとても少ないです。ドイツでは、移住者が社会的に向上すること、または経済状況を改善することにとっても苦労していると様々な研究調査が示しています。

それでも、移住者の社会的な統合問題は過去20年間に前進が見られました。ドイツ国籍の取得が法的に簡単になって、移住者とドイツ人の交流は活発になり、民族文化の多様性は以前よりも受け入れられるようになりました。そして新しい移住法により、移住者政策と社会的な統合に関する、労働市場から人道主義までの話題を考慮した包括的な法律が初めて定められました。しかし、統合は今後も政治と社会の重要な課題として考えられます。今後、最も力を入れるべきものとして、ドイツ語能力の向上をはじめ、移住者の子供たちへの教育機会の改善、移住者の出身地の文化とドイツの文化が接することなく平行に存在すること、そして「平行社会」や「民族的なゲットー」を防ぐための施策を講じることが必要だと強調されています。

政治的なものだけでなく、「移民」の影響で、キリスト教以外（ドイツでは、キリスト教が主な宗教です）の宗教も重要性が増してきました。ドイツに住む多くの外国人はイスラム教徒です。ドイツには41か国を母国とする約329万人のイスラム教徒が暮らしています。基本法は信仰の自由又は、自由な宗教の実践活動を保障しています。それによって、最近のニュースでよく討論された話題は二つありました。一つは欧州最大のモスク（イスラム礼拝所）をケルン市で建設する計画。結果としては、ケルンの議会で認められ、教徒1200人が入るモスクが2009年に完成する予定です。もう一つは教育現場での必死の戦い—トルコ人の教員は学校内でスカーフを着用して良いか良くないかという話題が登場しました。イスラム教の女性は外出時にスカーフを着用し、髪を隠す習慣があります。しかし、ドイツでは学校内だけではなく、公衆施設内（教会を含め）では帽子、スカーフなどの頭にかぶるものは禁止されているのです。その結論は…バーデン・ヴュルテンベルク州では学校内でのスカーフ着用は禁止となりました。他の州はまだ検討中だそうです。

皆さんはどう考えますか？解決するのは簡単ではありませんね。それは本当の異文化の現場だと思います。文化・宗教・社会・言葉が異なっていると、様々な問題が出ます。お互いに納得するまで話し合うのが一番理想ですが、妥協に応じる方が多いと思います。私も日常生活でも職場生活でも「ドイツでは当たり前でも日本では違う」という妥協で生きていますので、それは自分で選んだ道ですし、それこそ面白くて、異文化を活かしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

国際交流員ウリさんの **びっくり箱** 第13回

ドイツの復活祭イースター in 梅まつり
～ 伝統的なイースターエッグ作り～

絵の具を使って一緒にイースターの卵を作しましょう！国際交流員ウリさん(ドイツ人)が教えてくれるよ。子どもはもちろん大人も大歓迎！みんなでドイツの遊びを体験しましょう！

日時 3月15日(日)午前10時～午後2時

場所 下野薬師寺歴史館内

参加費 無料(ただし、1人3個限り)

受付 当日現地

問い合わせ先 生活課 ☎40-5555

(梅まつりに関する問い合わせ先 文化課 ☎52-1120)

